



青葉若葉の候となりました。皆さまお元気でお過ごしのことと存じます。日頃から、いじめ防止に対して目配り・気配りしてくださり誠にありがとうございます。

【サポーターの皆さん！！今年度もよろしくお願ひします。】



昨年度もいじめ防止活動にご協力いただきありがとうございました。

令和元年度のいじめ防止サポーターの活動について報告いたします。

ご報告いただきました活動件数は、事業者が78件、団体が49件で合計127件でした。活動内容について大まかに分類すると「掲示」「見守り」「啓発」「グループワーク」「ホームページでのPR」などとなりました。

【事業所の皆様の活動】

活動の種類	件数
掲示	59
見守り	8
啓発	6
ホームページ	5
合計	78

【団体の皆様の活動】

活動の種類	件数
掲示	19
グループワーク	18
啓発	6
見守り	5
研修	1
合計	49

上記の報告のとおり皆さまには、様々な活動を行っていただきました。

「いじめ」について考えたり、「いじめ」は許されないものだとして理解することは、「いじめ」防止に大きな効果があると思います。

今後も「いじめ」のない富士見市にしていくためにも、皆様のご協力をお願いいたします！

【今年度のいじめ防止の取組について】

●いじめ防止啓発講演会の開催



地域全体でいじめ防止を推進するために、サポーター向けのいじめ防止啓発講演会を実施する予定です。

講演テーマは、まだ未定ではありますが「いじめを防止するために家庭でできること・地域の住民ができること」を趣旨とした内容で実施する予定です。

時期が近くなりましたらサポーターの皆さまにもご案内いたしますので、ご参加くださいますようお願いいたします。

【※新型コロナウイルス感染拡大防止により、開催中止または、延期の場合もあり。】

【ネットいじめは重大な人権侵害】

最近、ニュースでも問題となっているSNS等を利用したいわゆる「ネットいじめ」が深刻化し、先月も女子プロレスラーの木村花さんがインターネットで誹謗中傷を受けお亡くなりになられてしまいました。

「ネットいじめ」では、個人情報や根拠のない中傷が安易に流され、第三者がいじめに加わるなど、加害者側と被害者側の関係が複雑化しており、大人から非常に見えにくいという点が、大きな特徴となっています。

いじめを防止するには、「いじめを絶対に許さない」という強い信念のもとに、市、学校、保護者、市民の皆様が連携してきずなを深め、社会総掛かりで取り組む必要があります。

【新型コロナウイルスによるいじめ】：毎日新聞編集長より。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が全国で解除され、6月1日以降、多くの学校が本格的に再開しています。長期の休み明けは子どもの自殺や不登校が増える傾向にある。こうした中で、私が心配していることのひとつが「コロナいじめ」です。感染予防策のせきエチケットや、「ソーシャルディスタンス」のために人と距離を取るといったことが、いじめにつながる行為に悪用できてしまう空気があります。ウイルスは世界中の人が感染しています。だから子供達にはこう伝えたい。もし友達が感染していたら、その友達を責めるのではなく、ウイルスが悪いんだと思ってほしい、と。

長期の休み明けは子どもの自殺が増える傾向があります。私たちとつながっていることもたちのSNS（ネット交流サービス）を見ると学校再開に向けて緊張感を高めている子が大勢います。1時間だけの登校だけ「冷や汗をかくレベルで胃がいたくなってきた」とか、6月再開予定だけど「調子が悪い。普通に起きれない」とか……。学校が再開するときについていけない子、学校にいけない子が増えていくことが懸念されます。

【2020年6月1日 毎日新聞 東京朝刊より引用】

街なかにも徐々に子どもたちの姿が増えてきましたが、サポーターの皆様には引き続き子どもたちの見守りにご協力をお願いいたします。

7月は「青少年の非行・被害防止特別強調月間」です。

内閣府では毎年7月を非行防止に関する月間として定め、これを受け埼玉県では毎年7月を「青少年の非行・被害防止特別強調月間」として、青少年の非行防止やいじめ撲滅について広報・啓発活動を展開しております。重点課題の1つとしていじめ・暴力行為等の問題行動への対応が挙げられておりますので、いじめ防止ポスターをより目立つところに掲示したり、登下校時の見守り回数を増やす、子どもと一緒にグループワークを行うなど、いじめ防止活動の強化にご協力をお願いいたします。